

研究主題「運動の特性を味わい、自己の学びや変容を実感する児童の育成 ー運動遊びの指導における言葉がけと環境づくりを通してー」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
杉並区立久我山小学校 主任教諭 植田 恵子

第1 研究のねらい

小学校学習指導要領解説体育編（平成29年7月）には、豊かなスポーツライフの継続のために小学校、中学校、高等学校を通じた系統性のある指導の重要性が述べられている。また、小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）では、低学年は中学年以降の学習の素地を形成する重要な時期であり、低学年での学力差がその後の学力差の拡大に大きく影響するとの課題が指摘されている。これらのことから、体育科の指導では、低学年での学習過程において、児童に運動の特性を十分に味わわせることが重要だと考えた。

また、小学校において教師の言葉がけや学習環境が児童の資質・能力の育成に大きな影響を与えていることに着目し、教師の言葉がけと環境づくりの両面から児童に働き掛けることが大切だと捉えた。言葉がけや環境づくりに際しては、小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）で示される「主体的・対話的で深い学び」の視点に立つことが不可欠であると考えた。このことは、中央教育審議会答申（平成28年12月）で重要性が述べられている、子供たちの資質・能力を育むための教師の指導力の向上につながるものである。

以上のことを踏まえて、全ての児童が運動の特性を味わい、自己の学びや変容を実感できるようにすることを目指し、研究主題を設定した。

第2 研究仮説

運動遊びの指導において、児童の学習状況に応じた言葉がけや環境づくりを工夫することによって、児童は運動の特性を味わい、自己の学びや変容を実感することができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) 運動の特性の捉え

複数の先行研究を基に、体育科で児童に味わわせたい運動の特性を整理した（表1）。運動の特性は、指導目標とともに学習を方向付けるものであり、学習目標を達成することで児童は運動の特性を味わうことができると捉えた。また、特に低学年においては、機能的特性を十分に味わわせることが大切だと考えた。

表1 運動の特性

構造的 特性	運動の仕組みや運動技術
機能的 特性	運動を通して味わうことのできる楽しさや喜び
効果的 特性	運動に期待できることや、運動による心身の発達効果

(2) 児童の姿の想定と言葉がけ

授業を通して実現したい児童の姿について、独立行政法人教職員支援機構「アクティブ・ラーニング授業実践事例（200事例）」、東京都多摩教育事務所「東京都多摩地区教育推進委員会第24次計画（通算第45年次）報告書」（平成31年2月）等を基に、「見通しをもつ」、「既存の知識及び技能や経験とつなぐ」、「学び合う」、「自覚する」と分類した。これらの姿を目指し、意図的な言葉がけを行うことが大切だと考えた（表2）。

表2 児童の姿に応じた言葉がけの例

児童の姿	場面	言葉がけの例
見通しをもつ	導入	<ul style="list-style-type: none"> 今日のめあては、○○です。 前回の学習を振り返って、今日はどういうことを頑張りたいですか。
	展開	<ul style="list-style-type: none"> 用具の置き方を変えてみてはどうだろう。 この間楽しいと言っていた方法を今日も試してみよう。 まずはどれか一つ選んでみよう。どの方法にしますか？ 今日のめあては何でしたか。
既存の知識及び技能や経験とつなぐ	展開	<ul style="list-style-type: none"> 前の時間に取り組んだことを生かして、○○していますね。 この間見付けたコツを今日も使ってみてくださいね。 この間の跳び方と比べて、違うところがありますか。 これまでに見付けたコツで使えそうなものはないだろうか。
学び合う	展開	<ul style="list-style-type: none"> ○○さんの考えと組み合わせたんですね。 「どうだった？」と聞いてみましょう。 みんなの考えを試してみたら、新しい工夫が生まれたんですね。 ○○さんの考えも聞いてみましょう。 ○○さんのよい動きのまねをされたんですね。
自覚する	展開	<ul style="list-style-type: none"> リズムよく跳んでいましたね。どのようなことに気を付けましたか。 やってみてどうでしたか。 比べて考えたから○○ということが分かったんですね。 ○○をしたのが楽しかったんですね。もう少し詳しく教えてください。 つまり、○○ということですか。
	終末	<ul style="list-style-type: none"> 初めの頃と比べてどう変わりましたか。 今日見付けた○○についてのコツは次の時間も使えそうですね。 友達と一緒に考えて、楽しい遊び方を見付けられましたね。 ○○のときのコツを使ってみたらうまくいきましたね。

(3) 環境づくり

表3 学習環境の分類

複数の先行研究を基に「時間」、「空間」、「人」、「教材」に整理した(表3)。児童の学習状況に応じて、これらの視点で授業づくり・授業改善を行うことが大切だと考えた。

視点	具体的な環境
時間	年間の指導計画、単元の指導計画、毎時間の指導計画、評価計画 等
空間	場所、運動(遊び)の場 等
人	グループ編成、児童相互の関わり 等
教材	取り上げる運動(遊び)、学習カード、掲示物 等

2 調査研究

都内公立小学校1校において、体育科の指導経験のある教員19名及び第2学年、第4学年、第6学年の児童204名に対して、体育科の指導・学習、教師の言葉がけについて質問紙調査及び個別の聞き取りを行った。

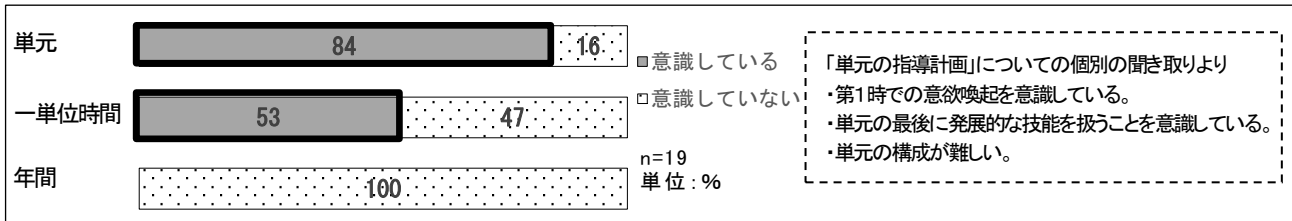


図1 教員への意識調査 (意識している指導計画)

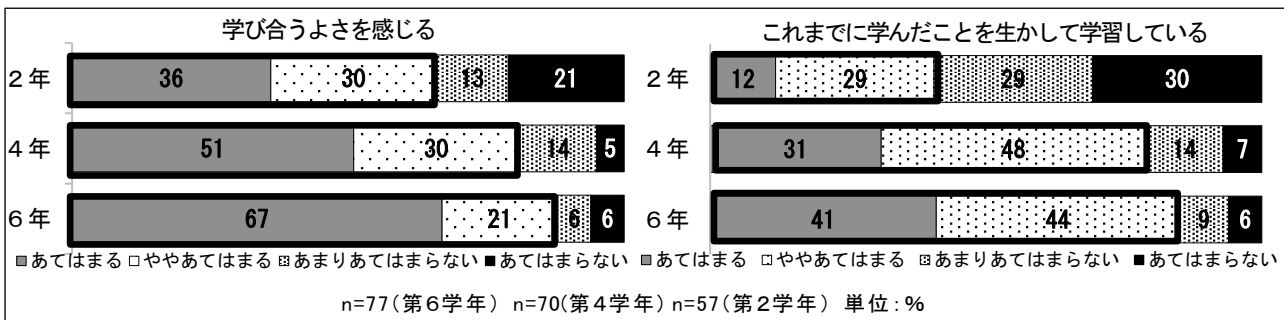


図2 児童への意識調査 (学び方)

調査から、指導及び言葉がけについて大半の教員が課題を感じ、特に適切な場の設定等の環境づくりや、学習状況に応じた言葉がけに難しさを感じていることが分かった。また、指

「運動の特性を味わい、自己の学びや変容を実感する児童の育成
ー運動遊びの指導における言葉がけと環境づくりを通してー」

導に際して 84%の教員が単元の指導計画を意識していると回答したが、その具体は、第1時での意欲喚起や、最後に発展的な技能を扱うことに留まっており、児童の学びのつながりに対する教員の意識が低いことや、教員が単元の構成に難しさを感じている傾向が明らかになった(図1)。

一方、児童の回答を見ると、「学び合うよさを感じる」、「これまでに学んだことを生かして学習している」という質問に対する肯定的な回答は学年が上がるほど増えている。このことは、児童の発達段階による影響が大きいと思われる。児童の学びを一層充実したものにするために、低学年の段階から学び合い等を意識して指導することが重要だと考えた。

3 開発研究

(1) 「言葉がけと環境づくりシート」

言葉がけや環境づくりの観点から、授業づくりや授業改善を行えるように基礎研究で想定した児童の姿を基に作成した。例を参考に記入したり、表計算ソフトのプルダウン機能を使用して言葉がけを選択したりして用いる(図3)。

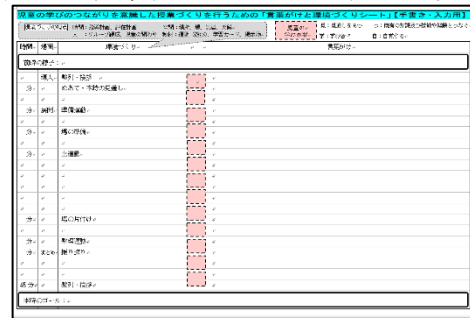


図3 「言葉がけと環境づくりシート」

(2) 「体育の授業お悩み解決アシストシート」

体育科の指導に関する教員の疑問や悩み等を解決するために作成した。課題の解決策だけではなく、その原因を児童の姿から考えることができるようにした(図4)。

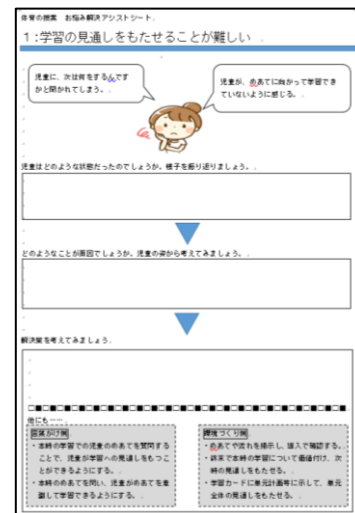


図4 「体育の授業お悩み解決アシストシート」

4 検証授業

(1) 検証の授業の概要

都内公立小学校1校において、第2学年の児童を対象に、走・跳の運動遊び「跳の運動遊び」(全5時間)の検証授業を実施した(表4)。

表4 検証授業の学習過程

「言葉がけと環境づくりシート」を基に、児童の学習状況に応じた言葉がけや、既習事項を活用しやすい環境づくりを行い、児童の学びを充実させられるようにした。

時	取り上げた運動遊び	学習活動
1	ゴム跳び遊び(ゴム1本)	左記の動きを経験した後、グループで用具の置き方や動き方を工夫して遊ぶ。
2	ゴム跳び遊び(ゴム複数本)	
3	ケンパー跳び遊び	
4	組み合わせて遊ぶ	グループで場を作り、楽しく遊べるように修正する。
5	組み合わせて遊ぶ	他グループが作った場で遊び、自分のグループの場を修正して遊ぶ。

(2) 検証の結果と考察

ア 運動の特性を味わうことについて

単元前半では、自己に適した場づくりや、学び合いが活性化しない状況から、教師は、児童に工夫の意図を尋ねることで既習事項とつなげて考えることができるようにしたり、考えを伝え合う場を工夫したりした。その結果、児童は、これまでの学習を意識して取り組み、単元後半には友達に自ら働き掛けて場の工夫や楽しかった跳び方等について進んで伝える姿が見られた。また、動きにぎこちなさのあった児童が、学び合いを通して楽しく

学習に取り組みながら、滑らかな動きで跳ぶことができるようになるなどの、跳の運動遊びの運動の特性を味わう姿も見られた。

イ 自己の学びや変容の実感について

単元前後に実施した意識調査の結果を比較した。調査は、質問紙及び個別の聞き取りにより行った。

単元前と比較すると、単元後は「学び合うよさを感じる」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と答えた児童は、34ポイント増加した（図4）。

「あてはまる」、「ややあてはまる」の回答理由として、「友達の考えを自分も取り入れた方がいいと気付く。」、「考えを伝え合って気付くことがあったり、新しいことを見付けたりする。」、「嬉しい気持ちになるし、いつもより楽しく学習できる。」等の意見があった。

また、「これまでに学んだことを生かして学習している」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と答えた児童の割合は53ポイント増加した（図5）。

生かしている事柄について、用具や動きが変化した場合に以前の動き方やこつと比較して考えることや、前時の学習でうまくいったことを取り入れたり、うまくいかなかったことを改善したりすること等、具体的な体験を想起した記述が見られた。

ウ 考察

「言葉がけと環境づくりシート」を用いた言葉がけや環境づくりにより、体験等を具体的に想起して、学び合うよさを実感したり、これまでに学んだことを生かして学習したりできるようになったと感じる児童が増加するなど、自己の学びや変容についての児童の意識が高まった。

第4 研究の成果

- ・ 児童が運動の特性を味わい、自己の学びや変容を実感する上で、教師が、言葉がけと環境づくりに重点をおいて、学びのつながりを意識した指導を行うことは有効であった。
- ・ 開発した「言葉がけと環境づくりシート」、「体育の授業お悩み解決アシストシート」は、体育科の指導に課題を感じる教員が、児童の姿を具体的に想起して、言葉がけや環境づくりの視点から授業づくりや授業改善を図る上で効果的であった。

第5 今後の課題

- ・ 日々の授業実践・授業改善を通して、効果的な言葉がけや環境づくりを蓄積することで、児童の学びの充実を図る。

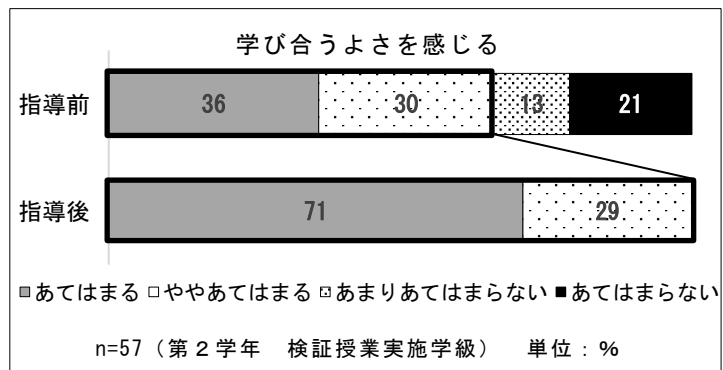


図4 単元前後の意識調査の結果1

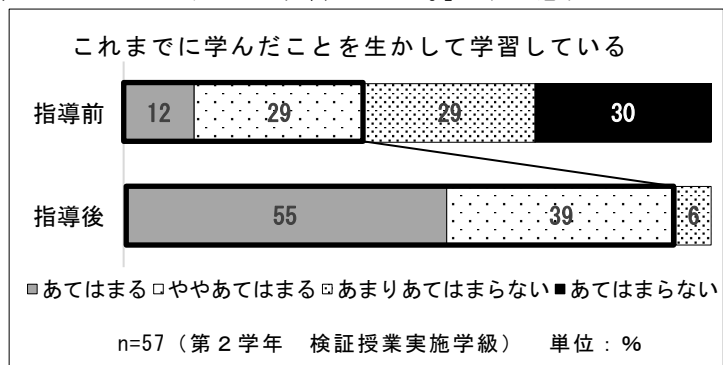


図5 単元前後の意識調査の結果2